



庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラムの構築実施

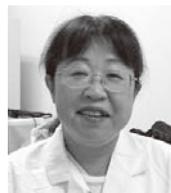
研究代表者 衣笠 治子（人間健康学部 総合健康学科 准教授）

共同研究者 山本起世子（人間健康学部 総合健康学科 教授）

近藤 照敏（人間健康学部 総合健康学科 教授）

連携協力者 西村 邦子（尼崎市役所 尼崎市立衛生研究所 所長）

松浦 秀一（尼崎市役所 経済環境局環境保全課環境監視センター 所長）



1. 本年度の目的

本年度は、昨年度まとめた生物調査の資料を利用し、幼児を対象とした親水プログラムの構築実施、また同時にプログラム実施のための大学生ボランティアリーダーの養成を行うことを目的とした。また、我々が行っている大学近辺の庄下川の水質検査と、尼崎市が発表している環境モニタリングデータと比較するため、水質検査の方法と項目の検討を尼崎市立衛生研究所および環境監視センターと協力して行うこととした。

2. 水質検査

昨年までと同様に、大学近辺の上生嶋橋で実施した。調査は27年6月から10月の期間、週1回実施した。定点測定の結果、DOの平均は4.33 mg/L、pHの平均は9.00、BODの平均は1.95 mg/L、CODの平均は9、透視度の平均は113cmであった。浮遊物質量は、

2.4 mg/L、であった。pH以外は、いずれも尼崎市によるモニタリングデータと大きな差異はなかった。

3. 幼児を対象とした親水プログラムの構築と実施

プログラムは、大学生ボランティアリーダーと幼児5～8名でグループを構成し、大学近辺の庄下川側道沿い約600mを、ジュズダマ、エノコログサ、ツユクサ、イヌタデ、カモを見つけていく約40分のもので、「しょうげがわたんていだん」と名付けた。幼児には探偵団のしるしとして、トンボの形を



